



2023年度 母性看護学領域

中村幸代(教授) 飯田真理子(准教授) 竹内翔子(講師) 篠原枝里子(助教)

2023年度母性ゼミ生の研究活動

2023年12月5日(火)に卒業研究発表会が行われ、母性ゼミ生12名が個々の研究テーマで発表を行いました。ここ数年はZoom開催でしたが、今年度は久しぶりの対面開催の運びとなりました。またゼミ生4名が卒業論文の内容を、2月に開催された第37回神奈川母性衛生学会学術集会にて発表し、坂口華さんが優秀演題賞(演題名:「助産所で勤務する助産師の視点から捉えた周産期メンタルヘルス支援における地域連携の困難感」)を受賞しました！



<卒業研究を終えて>

卒業研究では研究の基礎を学ぶことができ、また看護研究の重要性にも気づくことができました。今後も実践と研究のつながりを意識して学んでいきたいです。

2023年度ゼミ生 坂口 華さん



大学院生の研究活動 フィリピンでの研究フィールドワーク

しばらく渡航が難しい状況が続いていましたが、今年度は博士前期課程の助産学分野2年の2名がフィリピンへ渡航し、様々な医療施設や教育機関などの訪問先にて自身の研究テーマに関するインタビューを行いました。今年度初めての試みでしたが、それぞれ良い学びが得られたようでした。活動レポートの詳細は以下のQRコードからご覧いただけます！



大学院修了生の研究活動 最優秀演題賞を受賞しました！

2023年8月に開催された第49回日本看護研究学会学術集会にて、2022年度助産学分野修了生の大谷紗良さんが課題研究の一部を発表し、最優秀演題賞を受賞しました！

大谷紗良、篠原枝里子、竹内翔子、中村幸代

演題名:「無痛分娩実施施設の助産師による

非薬物的産痛緩和ケアの実態」



2023年度修了生より 大学院での研究活動を通して

2023年度は博士前期課程助産学分野の2名が修了しました。

学部時代の卒業論文とは違った視点からの分析や考察など1つ1つ終える度の達成感と喜びは大きかったです。学びたい内容、取り組みたい研究テーマ等、主体性が尊重される環境でやりたいことを叶えられた2年間となりました。 助産学分野修了 牛木沙保さん

最初は研究活動に不安がありました。先生方やゼミ生の皆様にご助言をいただきながら、一つ一つ試行錯誤し、楽しんで研究を進めることができました。研究を通して改めて学んだ、根拠に基づいた助産ケアを実践することの重要性を忘れずに、これから臨床で助産師として貢献したいです。 助産学分野修了 木村百合さん

大学院生の研究活動 海外学会での研究発表

2024年3月に香港で開催されたEAFONS2024にて、博士後期課程健康支援看護学分野の大学院生2名が、現在各自が取り組んでいる研究の一部を発表しました。

<発表演題>

- Effects of individualized nutrition education program to promote adequate protein intake in Japanese pregnant women: randomized controlled trial (Hisae Fujimono, et al.)
- Actual status of midwife support in promoting father-infant interactions during the newborn period in Japan (Kumiko Misato, et al.)

